

赤城山景観ガイドラインチェックリスト

行為の種類		デザインコード	エリア※1			確認欄 ※2
			賑わい	回遊	保全	
建築物の新築 ・改築・増築	形状・ 素材	木材の質感を活かした保護塗料を選定している。	□	□	□	□
		外装に自然な風合いの素材を積極的に活用している。	□	□	□	□
		建築物の高さは13m以下である。	□	□		□
		積雪や山並みを考慮し勾配のある屋根を採用している。	□	□		□
		外観に大きく無機質な壁を採用していない。	□	□		□
		歴史的に重要な建築物や地域のシンボルとなる建築物は、元の姿を維持したデザインを採用している。		□		□
		歴史的に重要な建築物や地域のシンボルとなる建築物の同じ敷地内のその他の建築物は、共通性を持たせて調和させるか、無機質になりすぎない範囲で「地」に徹している。		□		□
		湖畔、湖上、対岸から見える建築物は、自然景観に馴染むよう自然素材や推奨色を採用している。			□	□
		トイレの外観は自然景観に馴染むよう自然素材を基調とするか、推奨色を採用している。			□	□
	外構	室外機などは整頓し、周りを緑化する、柵で覆うなどして隠蔽している。	□	□	□	□
		建築物の前に中間領域を設けている。	□			□
	色彩	「地の色」の推奨色を採用している。	□	□	□	□
		外観はできる限り全体で「色相（色み）」を合わせている。	□	□	□	□
		建具や屋根は、できる限り色味を抑え、より暗い色を採用している。	□	□	□	□
	設計	隣接する建築物や同一エリア内の建築物は、高さ、庇の高さ、屋根勾配の角度、色、素材などに共通性をもたせており連続性がつくられている。	□	□		□
		建築物の設置場所は湖畔ではない。			□	□
		保全エリアは、最低限必要なもの以外の人工物は極力排除するよう努める。			□	□
工作物の新築 改築・増築	形状・ 素材	仮設の工作物は、共通のアイテムを活用している。	□	□	□	□
		照明は華美にしすぎないように高さや数を抑える。	□	□	□	□
		遊歩道の柵やベンチなどの工作物は自然素材か推奨色を使用している。		□		□
		沿道の工作物は、自然素材か推奨色を使用している。		□		□
		法面は緑地か、石積擁壁などの自然素材とするか、間知ブロック擁壁など、無機質になりすぎない素材を使用している。		□		□
		法面は緑地か、石積擁壁などの自然素材としている。			□	□
		柵は木柵や生け垣などの自然素材とするか推奨色を使用している。		□	□	□
		金属素地の単管パイプや柵、大面積の金属板は使用していない。		□		□
		金属素地のものは使用していない。			□	□
		栈橋は自然素材か推奨色として、構造物の高さを揃えたり仮設的な素材を避けるなどして象徴的に見せている。			□	□
		湖畔、湖上、対岸からみえる工作物は、自然景観に馴染むように、自然素材や推奨色を使用している。			□	□
		ベンチは木製など、周囲と調和する自然素材のものとし、金属やコンクリートなどの人工素材は、極力避けるか、推奨色を使用している。			□	□
	色彩	「地の色」の推奨色を使用している。	□	□	□	□
		アクセントカラーを使用する場合は、推奨色を活用している。	□	□	□	□
		電柱、電線は、埋設、移設、景観色での塗装などにより、目立たせないようにしている。	□	□	□	□
		ガードレールは道路の安全性に配慮したうえで、推奨色とし、ガードケーブルやガードパイプなど透き通しのあるものを選定している。		□		□
	設計	歩行動線を確保した上で、店舗前、施設の周辺、眺望の良いところはベンチやテーブルセットを配置するなどして憩いの場をつくっている。	□	□		□
		遊歩道の歩行を邪魔しない場所に、ベンチの配置や緑化などを行い、居心地の良い遊歩道づくりにつとめている。		□		□
		同一エリア内にある同じ種類の工作物は可能な限り製品や色を揃えている。		□	□	□
		湖畔にはベンチを設置するなどして、佇みの場を設けている。			□	□
		湖畔のベンチなどの工作物は共通のものとして、設置場所を限定する、意図をもって並べるなどしている。			□	□
		保全エリアは、最低限必要なもの以外の人工物は極力排除するよう努めている。			□	□
	配置	視点場などの高い位置から見える山の斜面などに大規模な太陽光パネルを設置していない。	□	□	□	□
		道路や視点場などから見える太陽光パネルは、周りを緑化する、景観を意識した柵などで覆うなどして遮蔽に努めている。	□	□	□	□
		仮設の柵は整然と並べるよう努めている。		□	□	□
		湖畔に常時設置されているポートや栈橋などの工作物も共有するなどして可能な限り数量を減らしている。			□	□

広告物	形状・ 素材	簡易広告物は、共通のデザインを使用している。	□	□	□	□
		デジタルサイネージなど音や光の明滅する広告物ではない。	□	□	□	□
		自然素材や景観に配慮した色や素材で統一されている。	□	□	□	□
		遊歩道のサインは自然素材を使用するか、推奨色を使用している。	■	□	■	□
		金属素地の単管パイプや柵、大面積の金属板はしていない。		□	■	□
		湖畔、湖上、対岸から見える広告物は、自然景観に馴染むように自然素材や推奨色を使用している。	■	■	□	□
		サインのベースは木製など周囲と調和する自然素材及び推奨色を使用している。	■	■	□	□
	色彩	アクセントカラーは推奨色を使用している。	□	□	□	□
		ベースとなる色、高さ、書体、設置場所などは周辺から大きく逸脱していない。	□	□	■	□
		道路の標識や看板などは、茶系の表示として、推奨色をベースとし、裏側、柱、金具の色も同色を使用している。	■	□	■	□
	設計	歴史的に重要な建築物や地域のシンボルとなる建築物周辺には、広告物の過度な設置を避け、歩行者の視線を阻害しないなど効果的に配置している。		□	■	□
		歩行者の主要な動線に合っており、重複した内容の広告物はない。	□	□	□	□
		遊歩道への誘導するサインを設けるなどして、入口を明確にしている。	■	□	■	□
		遊歩道は他の回遊動線や結節点と合わせて計画し、ルートを示すサインを連続させるなどして、来訪者への回遊を促す設計となっている。		□		□
		史跡のサインは統一したものを使用している。		□	■	□
		広告物は垂直に立てている。		□	■	□
		赤城山エリアの入口を明確にし、ゲート性を意識するなどして、アプローチを演出している。		□	■	□
		保全エリアは、最低限必要なもの以外の人工物は極力排除している。	■	■	□	□
		山道入口は道路からの引きの空間を充分設ける、サインを立てるなどして明確にしている。	■	■	□	□
	配置	同一エリア内にある同じ種類の広告物は可能な限り製品や色を揃えている。		□	■	□
		歩行者の見やすさに配慮し、建築物の外壁や建築物前の広告物の数、面積、高さは可能な限り抑えている。	□	□	■	□
		建築物の2階以上には屋号以外の広告物を設置しない。	□	□		□
		建築物のガラス面の貼り紙は、必要最低限の数としガラス面を埋めていない。	□	□		□
		沿道の広告物の数や高さを極力抑えている。	■	□	■	□
		山道入口のサインは配置や高さを揃えている。		■	□	□
		歴史的に重要な建築物や地域のシンボルとなる建築物に、建築物の一部となっている名称など以外の広告物や、建築物への貼り紙をしていない。		□	■	□
駐車場	形状・ 素材	遊歩道の舗装は自然素材が推奨色を使用している。	■	□	■	□
		歩道は自然のままとするか、木道、土舗装、砂利舗装など自然素材ベースとしたものとしている。	■	■	□	□
	設計	駐車場は、出入口、車両動線、駐車スペース、歩行動線、大型車、バイク、自転車などの区分を明確にし安全で適切な誘導に努めている。	□	□	□	□
		駐車場の沿道部は緑化に努めている。	□	□	□	□
		歴史的に重要な建築物や地域のシンボルとなる建築物は、施設の入口を明確にし、ゲート性を意識するなどして、アプローチを演出するよう努めている。	■	□	■	□
		湖畔への車両の乗り入れを制限する、または駐車場や歩車境界を明確にしている。		■	□	□
		保全エリアは、最低限必要なもの以外の人工物は極力排除するよう努めている。	■	■	□	□
		山道入口は道路からの引きの空間を充分設けるなどして明確にするよう努めている。	■	■	□	□
		サインは、統一のデザインを使用している。	□	□	□	□
その他	—	視点場から見える遮蔽物は除くなどして視点場からの見通しを確保し景観を整えている。	□	□	□	□
		不要なものは撤去する。	□	□	□	□
		すぐに使用しないもの、やむを得ず屋外に設置する資材などは整頓し、周りを緑化する、柵で覆うなどして遮蔽に努めている。	□	□	□	□
		視点場を有効活用するためのベンチを配置している。	□	□	□	□
		保全エリアは、必要最低限なもの以外の人工物は極力排除するよう努めている。	■	■	□	□

※1 赤城山景観ガイドライン上のエリア分け（賑わいエリア、回遊エリア、保全エリア）

※2 自治体使用欄